

震災復興事業地区関連街区公園の住民参加型施設計画の特徴とその利用満足度の検証

(株)環境緑地設計研究所 荻本 真由
兵庫県立淡路景観園芸学校 平田 富士男

1. はじめに

住民のまちづくりへの参加意識の高まりとともに、公共事業においても街区公園のような身近な公園を中心に住民参加の取り組みが多くなされるようになってきた。行政もより地域の実情に応じた事業の実現とその後の管理運営に際して、市民との連携が不可欠であることが認識されるようになってきている¹⁾。

兵庫県ではこのような動きが阪神・淡路大震災を機により一層加速されており、震災後新規に整備された、またはされる公園 62ヶ所のうち 38ヶ所で、ワークショップ等による住民参加型設計検討が行われたか、あるいは行われる予定である(2002年3月時点)。

ところが、住民にとって公園の施設計画を自分達の手でつくるということは初めての経験であることが多く、そのような方式で検討された施設計画が必ずしも利用しやすい施設計画になっているとはかぎらない可能性もある。しかし、このようにしてできた公園は完成してから時間を経てないこともあり、そのような施設計画が実際に利用する住民にとって利用しやすいものになっているかどうかを検証した例は見られない。そこで、このような方式によって検討された施設計画を、利用がなされている現時点で利用者の視点に立ち、真に利用しやすい公園の施設計画となっているかどうかを検証することとした。

今後も住民参加による公園計画はますます盛んになっていくことと推測される。従って現時点でそうした公園の特徴や利用者の評価を、これからの参考にするためにも知っておくことが必要であると考えられる。

2. 研究の流れ

研究は、住民参加型設計検討によってつくられた公園の施設計画が従来型の施設計画とどのような違いがあるか、そのような住民提案の施設が現時点で実際にどのように使われているか、それらを住民がどのように評価しているかを把握することとし、以下の調査を行った。

施設計画の内容比較を目的として、住民参加型設計検討が行われた公園施設内容を資料から把握し、従来型の公園の設計と比較する調査。

住民参加型設計検討で住民から提案された施設の利用状況を実地に把握する定点観察。

そのような施設の現時点での住民の評価を把握するアンケート調査。

なお、対象地は図-1の地域である。

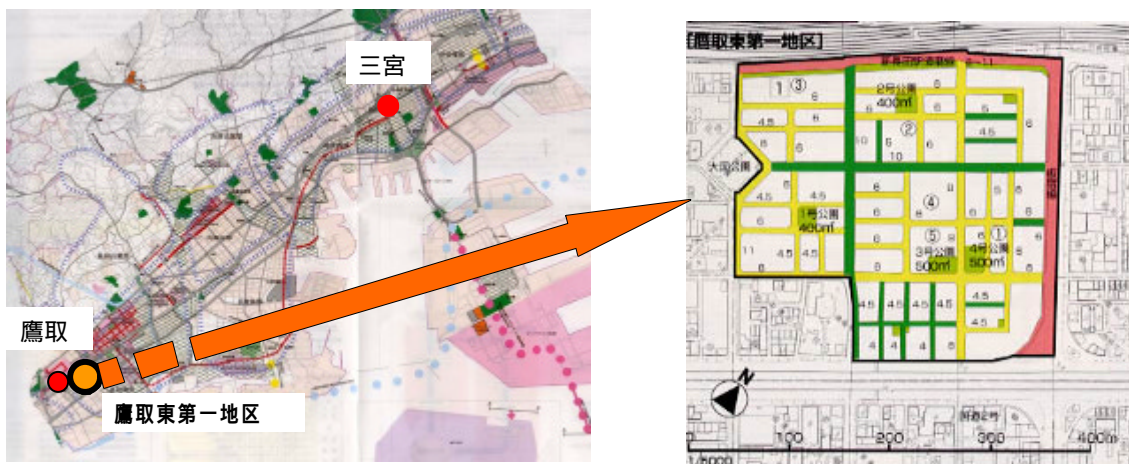


図 - 1 対象地位置図

対象地は、鷹取東第一地区と呼ばれる、震災復興事業地区の中で最も早く復興事業による公園の供用が開

始された 8.5ha の地域である。兵庫県神戸市長田区内にあり、JR 鷹取駅南東部に位置する。震災では被災率 97%と甚大な被害を受けた。しかし、震災前からまちづくり協議会が存在していたため、復興へ向けての行動を早期に開始することができ、その結果最も早く公園が供用開始されることとなった。この地区には 4 つ（海運双子池公園、日吉町ひだまり公園、残り 2 つは連結して使用できるため、若松鷹取公園として 1 つの公園名で扱われている。以後は 1 つの公園として扱う。またポケットパークは除く）の住民参加を経てきた公園がある。規模は若松鷹取公園が 1000 m²、残りの 2 つが 400 m²である。その他、震災の折には延焼をくいとめたとして有名になった大国公園や、ポケットパークも点在している。

また、これら公園の比較対象としては、近隣の兵庫・長田・須磨各区内にある街区公園とし、また時代による設計のトレンドの違いをなるべく避けるため過去 10 年間に供用開始したものを採用した。

の比較調査における調査項目は、a. 導入されている施設の数、b. 導入されている施設の種類数（施設要素数）、c. 公園敷地内で施設が占める面積の割合（施設占有率）であり、計画平面図から計測した。

の定点観察は、公園の利用状況のビデオ撮影を行い、利用者がどれくらいの人数、どれくらいの時間、どの施設を利用しているかを図面にプロットしていき、一つの公園内での施設毎の利用状況の比較を行った。観察日時は 2001 年 11 月 18 日（日）および 19 日（月）の 11 時から 14 時と、15 時から 17 時 30 分（日没）である。

のアンケート調査は、これら公園の周辺住民を対象に a. 公園をどのように利用するか（複数回答）、b. どの公園によく行くか、c. その公園にどのくらいの頻度で行くか、d. その公園を利用する理由、e. その公園に満足しているか、していなければその理由、f. 公園にある施設のうちどれをよく利用するか（複数回答）、g. 各施設について必要性をどのくらい感じるか（非常に・やや・どちらでもない・あまり・まったく、の 5 段階評価）、h. 公園の管理に関わっているか、i. この地域で公園が計画される際、ワークショップが行われていたことを知っていたか、また参加したか、j. 居住地、k. 性別、l. 年齢層の 12 問を設定して無記名式で行った。

調査票は 2002 年 1 月 12 日および 24 日の 2 回にわけて 732 世帯に配布、319 通を回収した。

3. 結果

公園の施設計画の比較

住民参加を経てつくられた公園は従来の公園と比べ、どのような施設計画の特徴を持っているのかを把握した結果をまとめたものが表 - 1 である。

	公園名	面積 (m ²)	平均面積 (m ²)	施設														施設数	施設要素数	施設率 (%)	施設要素数平均	施設率平均 (%)			
				修景 モニユメント	水流・池 つぎ山	休養 あずまや バーゴラ	木製遊具 複合遊具	砂場 ブランコ	遊戯 すべり台 ジャングルジム	健康遊具 健康遊具	健康遊具 健康遊具	スプリング遊具 スプリング遊具	便益 ステージ	水飲み場 水飲み場	管理 時計台	倉庫 手押しポンプ	井戸						掲示板		
住民参加型公園	上一公園	500	676			1	1				1	1	1			1		1		1	9	8	30.5	6.64	26.5
	上沢 2 丁目公園	500		2			1	1				2	1		1		1		1		9	7	28.4		
	上沢 3 丁目公園	500				1		1						1		1		1		1	8	6	19.2		
	上沢 4 丁目公園	500				1		1						3		1	1	1		1	8	5	36.1		
	上沢 5 丁目公園	500				1		1						2		1	1	1	1	1	8	6	19.1		
	上沢 6 丁目公園	500				2		1						1		1	1	1	1	11	8	34.9			
	上沢 7 丁目公園	500		1	1		1							1		1		1	1	9	8	28.8			
	上沢 8 丁目公園	500		1		1		1						1		1		1	1	9	7	25.7			
	御崎町西公園	1000					3								3		1	1	1	11	5	22.3			
	金平町公園	2000				1		1								1				3	3	18.3			
	五番町公園	660				1	1								1	1	1			5	5	25.4			
	海運町公園	400				1	1										1			4	4	35			
わかたか公園	1000			1	1		1						2	1	2		2	2	3	18	11	18.8			
日吉町ひだまり公園	400			1	1		1						2	2	2		1	1	1	15	12	28.4			
非参加型公園	大手公園	2000	823			1	1	1	1		1									5	5	3.1	4.11	8.79	
	湊川町北公園	1520				1		1	1						1					6	4	4.7			
	雲南北公園	710							2	1	1		1				1			7	5	21.3			
	五宮町公園	750					1	1	1						1	1	1	2			8	7			4.3
	六番町小公園	460				1				1	1						1			4	4	5.1			
	長田天神小公園	400							1			1				1				3	3	3.5			
	片山町小公園	410							1	1										2	2	4.7			
	大日丘北公園	300								1	1	1				1				4	4	30.9			
長尾町中公園	860			1		1	1											3	3	1.5					

表 - 1 公園の施設計画の比較

これを見ると、

- ・住民参加型公園にのみモニュメント、水流・池、健康歩道（ツボ押し歩道）といった施設が見られる
- ・施設の要素数（種類数）、施設率平均共に非参加型公園の平均を上回る

という特徴があることがあげられる。

この差の要因としては、震災の被害が甚大であった地域が多いので、住民参加で計画した際に水を導入したり、モニュメントの建立を望んだりする傾向があるようであることと、施設率については種類を多く導入する傾向があるということが考えられる。

また、この際今の時点で欲しいと思うものを言っておこう、という住民側の意識と提案された意見をなかなか排除しにくい行政側の意向の結果ではないかとも推察される。

しかし、結果として狭い区域に多くの施設が詰め込まれる計画となっているとも言え、住民にとって真に使いやすい公園となっているのかどうかは疑問の残るところである。

利用状況定点観察結果

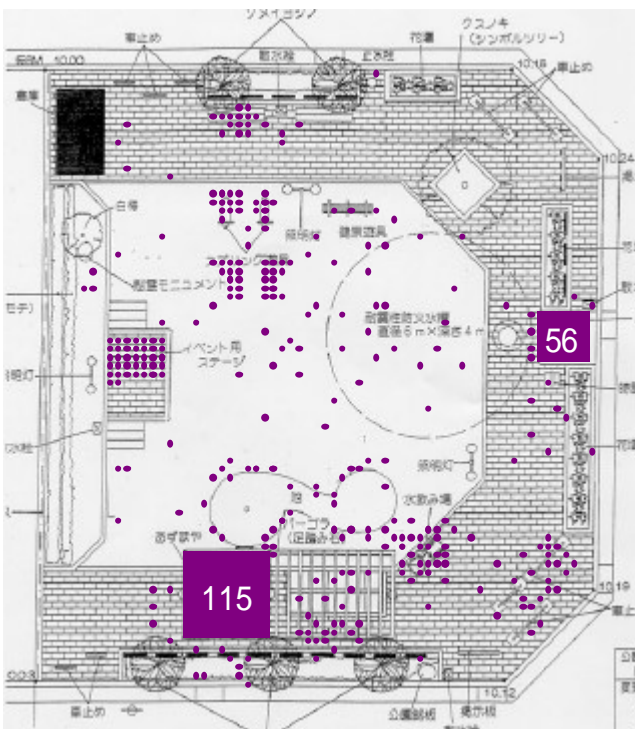


図 - 2 利用状況定点観察結果

日吉町ひだまり公園の2001年11月18日、19日合わせて延べ11時間の観察結果を表したものが図-2である。2分以上の滞在者を利用者とし、一人一点で2分ごとの位置を表している。つまり、あずまやの115は利用者全員の利用時間合計が330分であったことを示している。

この中ではステージ、健康遊具、藤棚の下の健康歩道、池等が住民参加型に特有の施設であるが、実際に点が集中しているのはあずまや、散水栓である。健康歩道にもある程度の点がついているが、これは子供が歩道脇の手すりですりすまっていたもので、本来の使い方をされてはいなかった。これを見る限りでは住民提案にかかわる施設が実際にはあまり使われていない状況が感じられる。ワークショップ時には住民の気持ちは公園を記念碑としてつくるように捉えているように感じられ、地域の公園として多様な利用をする空間としての捉え方に若干不足面があるように思われる。

アンケート調査結果

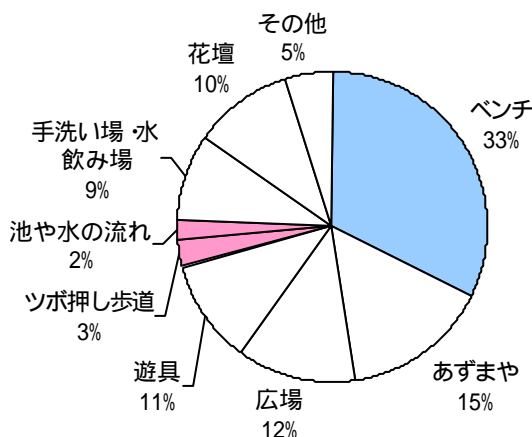


図 - 3 利用する施設

順位	必要だと思う	不必要と思う	順位
1	時計	時計	11
2	ベンチ	花壇	10
3	広場	広場	8
4	花壇	手洗い場・水飲み場	8
5	手洗い場・水飲み場	ベンチ	7
6	あずまや	遊具	6
7	遊具	あずまや	5
8	背伸ばしベンチ	背伸ばしベンチ	4
9	モニュメント	モニュメント	3
10	池や水の流れ	池や水の流れ	2
11	ツボ押し歩道	ツボ押し歩道	1

表 - 2 必要性に関する順位

図 - 3 のグラフはいずれかの施設を利用すると答えた 243 人の回答の内訳を示したものである。ここでは池や水の流れ、ツボ押し歩道など住民参加型公園に特有の施設は他の施設に比べて低い割合を示している。ベンチと比較すると実に 11 分の 1 以下の数字となっている。このことからこれらは、住民参加による計画で提案された施設でありながら実際にはあまり利用がなされていない可能性があるということが読み取れる。

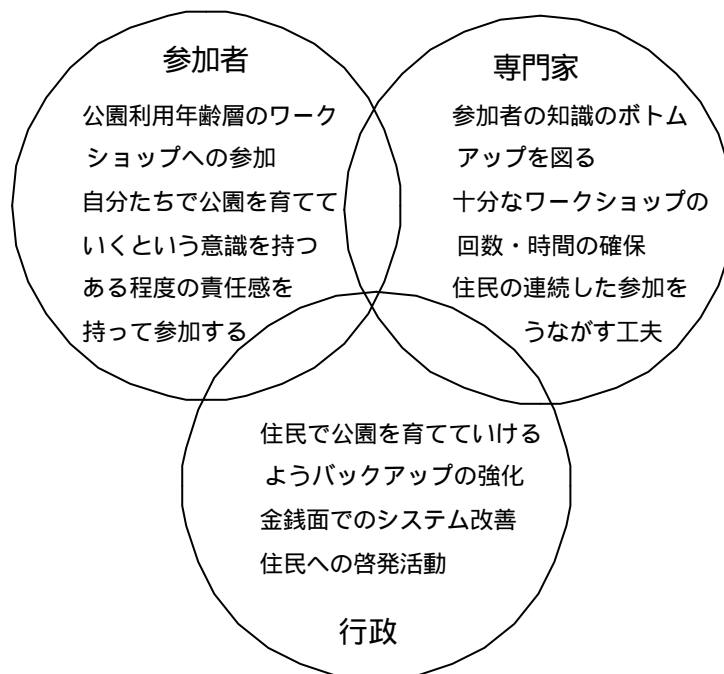
また、公園にある 11 種類の施設をあげて、それぞれについて必要性をどのくらい感じるか、非常に（感じる）・やや・どちらでもない・あまり（感じない）・まったくの 5 段階で評価してもらった。そのうち「非常に」「やや」をプラス評価、「あまり」「まったく」をマイナス評価として順位をつけたのが表 - 2 である。ツボ押し歩道等住民参加型公園に特有であると考えられる施設（表中下部 4 つの施設）については評価が全体的に低いことに注目したい。このことは、住民参加によって計画された公園施設の中には、利用段階によって判断してみると必要性があまり感じられないものも導入される可能性があることを示唆している。

4. まとめ

今回、住民参加型で設計検討を行った公園の現時点での利用状況等を実地に検証してみたが、住民提案であるにもかかわらず、その住民には十分利用されているわけではない状況や住民自身の評価も決して高くない状況もかいま見られた。

ワークショップと言う場で住民が述べる意見は、必ずしも利用時点での公園の利用しやすさをしっかり意識した意見ばかりではなく、言わば「その場の雰囲気」「この際言っておこう」というものもあるのではないかと、さらに、ワークショップ参加者と実際に使用する年齢層の乖離も影響していると思われる。また、行政側としても「住民参加型」をうたっているため、それら意見を排除することはほとんどなく、結局出された意見がある程度まとめる形で公園ができあがっていく、という状況があるのではないだろうか。

ここにおいて、それらを整理して真に利用しやすい施設を住民意見も取り入れながら提案していく専門家の役割が重要となってくるわけで、それらも踏まえながらそれぞれの者の果たすべき役割として以下のようなことが言えるのではないだろうか。



参考文献

- 1) 矢澤容子・岡田信行 (2000) 「緑の基本計画における市民参加の有効性」, ランドスケープ研究 63 (4), 293-295.